



今回のテーマ

乳幼児摂食習慣とは

乳幼児摂食習慣 (Infant and young child feeding: IYCF) とは、子どもの生存と発育の改善にとって鍵となる要素で、特に、最初の1,000日と呼ばれる期間 (妊娠から生後2才まで) における適切な栄養が子どもの病気や死亡のリスクを低下させ、発育を改善します。毎年600万人の5歳未満児が死亡し、そのうち約半分が栄養不良に起因しています。さらにうち3分の2は1歳以下乳児です。適切なIYCF習慣によって毎年百万人近い子どもの命を救えることとなります。WHO)とUNICEF)は特に以下の3つを推奨しています。

- 1) 生後1時間以内の早期授乳開始: 様々な免疫要素を含む「初乳」を与えるとこによる感染症予防効果のほか、その後の母乳育児を促したりを母子間の発達心理的効果もあります。
- 2) 生後6ヶ月間の完全母乳育児: 母乳は生後6ヶ月間に乳児が必要とする全ての栄養分を提供します。感染症への免疫と予防、ホルモン分泌、発育向上、慢性疾患予防、母親の出産後出血の低下、がん予防、排卵制御など様々な効果があり死亡率を下げます。
- 3) 生後6ヶ月からの適切な栄養を含み安全な乳幼児補完食の導入と生後2年間以上の母乳育児の継続

ネパール事業



NAMIはAction against Hunger (ACF)と共同して、2018年5月から「ネパール国ナワルパルシ郡急性栄養不良統合管理プロジェクト」を実施しました。公益信託今井記念海外協力基金の助成を受けたプロジェクトです。ナワルパルシ郡は、テライ地方にあり、その南をインド国境に接しています。5歳未満児の約12%が急性栄養不良で、これらの子どもを早期発見し、治療・予防対策を行うことを目的としています。

プロジェクトの中心活動は、急性栄養不良対策の能力向上のためのトレーニングです。TOT研修を受けた郡保健事務所の保健スタッフが末端保健施設の保健ワーカーを、その保健ワーカーがコミュニティの女性ボランティアを、それぞれ訓練しました。2017年8月以降、5歳未満の重度急性栄養不良児が外来で治療回復をうけるためのセンター (OTP) が設置され、研修を受講した保健ワーカーが栄養治療食 (RUTF) を使って治療・回復活動を開始しています。また、コミュニティや郡レベルにプロジェクト管理委員会を構築し、事業の進捗の調整や問題解決を話合っています。

JICA課題別研修「母子栄養改善」

「母子栄養改善」研修は、ガーナ、カンボジア、コモロ、シエラレオネ、ジンバブエ、スーダン、ボツワナ、マラウィ、モザンビーク、ラオス、東チモールから計12名の参加者を対象に、「世界の栄養状況、栄養改善への取り組み、他の途上国や日本での栄養対策等を学ぶことで、具体的な行動計画を策定・実践する能力を形成すること」を目標に、2017年11~12月にかけて東京と北海道で実施され、その中で、NAMIは11月13,14日に「栄養改善のモニタリング評価」に関する2日間ワークショップをファシリテートしました。ワークショップ1日目では、栄養不良の基礎の紹介のあと、ケーススタディを使った「問題分析」の参加型演習が行われ、それぞれの問題に対応した介入活動が話し合われました。2日目には、前日の問題分析が目的分析、さらにログフレームに発展された後、モニタリング評価するための様々な指標の紹介、そして、指標データの入手方法として考えられる情報源を何種類か具体例を示しながら説明されました。



参加者はそれぞれの情報源の長所・短所を分析し、各国の状況を踏まえて、その妥当性を考えました。最後にサポートタイプ・スーパービジョンのビデオを使った演習が行われました。ワークショップは、2日間という短い時間では

ありましたが、栄養改善の計画立案からモニタリング評価までを一連のプロセスとして理解することを促すことができました。今後は、日本の保健栄養活動の経験にリンクさせられるよう、更に改善を加えてよりよいワークショップを目指します。

ウガンダ栄養調査

Eleanor Crook Foundation (ECF) がウガンダ北部においてローカルNGOと計画する栄養事業において、今回NAMIはベースライン栄養調査に関する技術支援を行いました。ウガンダ北部では1988年~2006年まで、政府軍と反政府武装勢力LRA (神の抵抗軍) との内戦が続いた地域で、LRAは多くの村人を誘拐し、強制的に戦闘や労働に従事させた悲しい歴史があります。南スーダンからの難民も多く住んでいます。



2018年1月に3つの現地NGOを集めてトレーニングを行った後、各対象地域で調査が行われました。栄養状態は悪く、母親の育児習慣の課題が多いこと、そして家庭内暴力やアルコール中毒などの社会問題もその背景にあることが明らかになりました。

今後の計画

連続ワークショップ「国際栄養の現状と課題」は継続的に開催されます。また、ネパールにおける国際協力プロジェクトは、今後さらに発展的に実施するため、資金調達を継続します。さらに、その他、研修・講義、地域の国際協力イベントなどでの出展やセミナーなど、いろいろな形で活動を行います。